

[社会・地域への責任と行動]

誰かのためになりたい、そんな気持ちが集まって。

教育、文化、スポーツなど、ムラタが展開している
 社会・地域貢献の一端をご紹介します。



「理科」の楽しさを次の世代へ。 社会・地域貢献も、ムラタらしく。

写真左より
 横浜事業所 管理部
 関口 将幸 / 三浦 梓 / 浦口 祥子
 技術・事業開発本部 商品開発統括部
 システムデザインセンター
 菺田 篤人
 技術・事業開発本部 商品開発統括部
 商品開発6部
 小島 恵美
 技術・事業開発本部 商品開発統括部
 商品開発4部
 小林 英一
 横浜事業所 管理部
 蓮井 恵美
 デバイス事業本部 センサ事業部
 企画・販推部
 森 大輔

「理科」の魅力伝えるために開発したオリジナルの 電子工作キット「ブルブル星人&トントンリモコン」

ムラタでは、子どもたちに理科やものづくりの楽しさを知ってもらうために、電子工作教室を開催しています。従来は、市販の工作キットを使っていましたが、横浜事業所の有志がオリジナルの工作キット「ブルブル星人&トントンリモコン」を開発。ボタンのない不思議なリモコン（トントンリモコン）を操作すると、ブルブル星人の左右の2つのモーターが振動し、ブルブル震えながら進みます。リモコンをどんとんと軽くたたくと、ショックセンサが衝撃を検知し、その制御信号をブルブル星人に伝える仕組みです。
 手づくり感満載ながら、動く、光る、音がる、という玩具の基本をしっかり押さえたキットです。動かして遊ぶのはもちろんですが、自分ではんだごてを使って作り上げたものなので、参加した子どもたちの喜びもひとしお。その生き生きとした様子から、従業員も元気をもらっています。

横浜事業所には、CSとESを追求する組織風土改革委員会があり、オリジナルキット開発もその母体から生まれたもの。この電子工作キットの開発から教室開催まで横浜事業所全体で取り組んできました。今後は、ほかの事業所での開催に加え、事業所のない地域でも地元のボランティアとのコラボレーションを行うなど、「ブルブル星人&トントンリモコン」が登場する地域をどんどん増やしていく予定です。



ブルブル星人&トントンリモコン

子どもたちの「理科好き」を育てるために、
 事業所の近隣で「出前授業」を行っています。

近年、子どもたちの「理科離れ」が問題視されています。ムラタは“ものづくり”企業として、未来を担う子どもたちに理科や科学の面白さを伝えるために、2006年以来、本社や事業所、関係会社の近隣地域で小学校、中学校などを会場に、「出前授業」を行っています。
 地元の小学校にムラタオリジナルの自転車型ロボット「ムラタセイサク君®」と一輪車型ロボット「ムラタセイコちゃん®」を連れていくと、「ロボットだ!」「テレビで見たことがある!」と子どもたちは大はしゃぎ。セイサク君、セイコちゃんがバランスを保つ仕組みを簡単な理科の話もまじえて解説したり、開発中の様子をビデオで紹介して、何度失敗してもあきらめてはいけないということを伝えたりしています。子どもたちからは、「理科が好きになりそう」「ロボットを作りたい」「将来は技術者になりたい」といった嬉しい感想をたくさんもらいます。これは、担当するムラタの従業員にとっても感動的な体験になっています。2009年度は、こうした活動をムラタ全体で105回実施しました。これからも、ムラタならではの「理科授業」を届けていきたいと考えています。



セイサク君のリュックの中を披露。
 たくさんの電子部品が詰まっています。



ハイチ大地震への支援活動として マッチングギフトを。

2010年1月12日、マグニチュード7.1の大地震がハイチを襲いました。非常に大きな被害が発生し、余震の影響も甚大でした。Murata Power Solutions, Inc.では、この状況を何とかしたいと願う従業員の想いが集まり募金活動を実施。2010年2月5日までに集まった寄付金と会社からの義援金を合わせて、総額5,000ドルのマッチングギフトをアメリカ赤十字に贈りました。また、Murata Electronics North America, Inc. HeadquartersやSyChip, Inc.でもマッチングギフトを実施しました。さらに、Murata Electronics (Netherlands) B.V.でも従業員が率先して寄付を募り、オフィスの受付に「Haiti Box」を設置。寄付金を、ハイチへの寄付活動を取りまとめた地元の教会へ寄付しました。



Murata Electronics (Netherlands) B.V.

Murata Power Solutions, Inc.